

2024(令和6)年度 星美学園短期大学 シラバス作成 ガイドライン

★原則：1科目につき、A4サイズの1ページ割り当て

I 科目に関する項目

① ～ ③、⑤ ～ ⑬

- ・原則、元データのとおりに記載する。
 - ・誤記や変更のある場合は、教務・学生支援課に連絡をお願いいたします。
 - ①科目名について、英語併記する。確認のうえ、必要な修正を加えてください。
- ※「⑫教職課程(科目・施行規則に定める科目区分又は事項等)」、「⑬保育士養成課程(告示による教科目)」の欄に記載された内容を確認して、シラバスを作成する。

④実務経験

- ・当該科目に関わる実務経験(〇年)について記す。
- ※専攻分野におけるおおむね五年以上の実務の経験を有する者

【例】

- ・幼稚園教諭(7年)・保育士(3年)・特別支援学校教諭
- ・臨床心理士・児童福祉施設職員・看護師 等
- ・実務経験を当該科目にどのように活かしているかを「授業の概要」欄の冒頭に記す。

II 授業内容に関する項目

①テーマ

- ・授業で扱う内容、中心テーマを簡潔に明記する。

②授業の概要

- ・授業の概要について、150～200字程度を目安に記す。また、履修者が履修前にイメージできるような説明があると良い。
 - ・実務経験を当該科目にどのように活かしているかを「授業概要」欄の冒頭に記す。
- ※複数教員が担当する科目において、実務経験者が一人でも含まれる場合、授業概要欄に明記すること。

【例】

- ・幼稚園教諭としての勤務経験を持つ教員が担当する。・・・
- ・臨床発達心理士として、幼稚園・保育所への発達支援巡回相談を行ってきた教員が、---
- ・看護師としての小児病棟での勤務経験を活かし、---

③履修者の到達目標(学習成果)

- ・授業の全回数が終了した時点で、履修者に「到達してほしい」行動や状態を「到達目標」および履修者が得ることのできる「学習成果」として示す。
※当該科目で身につける本学のディプロマ・ポリシーを踏まえて設定する(「カリキュラム・マップ」参照)。
- ・文は、履修者を主語におき、「〇〇できる」などという形式で記載する。
- ・「理解する」などの概念的な言葉ではなく、到達すべき行動や状態を明確に記述する。

【例】

1. 乳幼児期の発達の特徴を知る。 →1. 乳幼児期の発達の特徴を説明できる。
2. 子どもにふさわしい環境について理解する。 →2. 子どもにふさわしい環境の構成・企画ができる。

④ディプロマ・ポリシー(DP)との関係

- ・「カリキュラム・マップ」の各科目の横に記載されている、当該科目において、身につけるディプロマ・

ポリシー（DP）の番号を記入しておりますのでご確認ください。こちらは本学で定めておりますので、誤記以外は変更されないようにお願いいたします。

⑤アクティブ・ラーニング実施内容

- ・プロジェクト型学習（PBL）、反転授業、ディスカッション・ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習・フィールドワークのいずれかを実施されている場合は、該当する教育方法の欄に○印をつけてください。
- ＊プロジェクト型学習（PBL）…自ら問題を発見し、解決する能力を養うことを目的とした、問題解決型学習を促進する教育方法。
- ＊反転授業…従来は、授業で行ってきた講義の内容を予習として授業前に学生が個別に学習し、それをもとに授業では、学生が演習や議論を行い、理解を深める教育方法。

⑥ICT 機器による授業や支援

- ・ICT 機器による双方向授業や自主学習支援を実施されている場合は、該当する教育方法の欄に○印をつけてください。

⑦授業の計画（授業内容）

- ・授業は、前期8回・15回、または、後期の8回・15回、通年30回で、必ず計画する。
- ※「幼稚園実習（事前事後の指導を含む）」および「特別支援学校教育実習（事前事後の指導を含む）」については、この限りではない。単位数に見合った回数で計画すること。別紙「単位の計算方法」を参照すること。
- ・「定期試験」「試験」「まとめ」のみを記載した授業回は設けない。
- ・各回に、実施するテーマ・内容を具体的に、わかりやすく記載する。
- ・40字程度を目安に記す。
- ・数回にわたって同じテーマ・内容を取り扱う場合は、「同上」「リ」という表記ではなく、各回のサブテーマや、具体的内容が分かるように記載する。

【例】

- ・教育原理① →教育原理①「注意力の集中現象」とその教育的意義
- ・教育原理② →教育原理②「集中現象」を引き起こす外的条件としての教具

★アクティブ・ラーニングやICT機器による授業や支援を行っている場合は、以下のように、シラバスの「②授業の概要」または「⑦授業の計画」の中に、記述してください。

<アクティブ・ラーニング>

⑤の欄に○印を記入した場合は、プロジェクト型学習（PBL）、反転授業、ディスカッション・ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習・フィールドワークといったキーワードを記載する。

【例】

- ・第14回 施設実習後の学びの確認とグループディスカッションによる実習内容の共有

<ICT機器の活用による双方向型授業>

⑥の欄に○印を記入した場合は、以下のように記載する。

【例】

- ・双方向型授業として、Google Meet やZoom を使用し、受講生同士のディスカッションを行う。受講生の理解度や関心に応じて進める。
- ・第13回（自主学習支援）Google Classroomにより、学生の課題の提出状況や理解度を把握しながら自主学習支援を行う。

- ・定期試験の項目欄には、実施の有無および内容について記載する。

【例】

- ・筆記試験（持ち込みなし）
- ・レポート提出
- ・実技試験
- ・実施しない

⑧自主学習の課題

- ・『学生要覧』の「履修に関すること」の「2 履修の手引き」の「4 科目と単位数」の項に記されているとおり、「学習時間は、実際に教室で講義に臨んだ時間（90分）のほか、教室外における予・復習のほか、関連する読書を重ね、課せられたレポート・論文を書くこと、講義内容について考察を重ねるなどの時間が含まれる」ため、必ず記入する。
- ・具体的には、「講義科目」の場合、2単位が習得できる45時間の学習の中には、教室外での4時間の学習×15回＝60時間が求められている。それに見合った「自主学習の課題」を、予習と復習のそれぞれについて、具体的な内容及びそれに必要な時間を記載する。別紙「単位の計算方法」を参照すること。
- ・指定テキストの予習対象ページの提示や、調べておくこと、あるいは作成や提出が予定されている課題等がある場合は、それについても記す。

⑨テキスト

- ・履修者が購入しなければならないテキストに関する情報を、著者名・編者名、『書名』、出版社名、発行年の順で、正確に記す。
- ・テキストの必要記入項目は、Google フォームによる「テキスト注文アンケート」の内容と合致するようにする。

⑩参考書・参考資料・準備物等

- ・授業で使用しないものでも、読んでおいたほうが良い「参考図書」、「資料」等を記載する。
なお、シラバスを書く段階で決定していない場合は、「授業で紹介する」と記してもよい。
- ・この科目を履修する上で体験しておいた方がよいこと、見ておいた方がよいもの、あるいは準備しておく物などがある場合は、この欄に記載する。
- ・「テキスト」および「参考書・参考資料」のいずれか一方を必ず記載する。
- ・「教職課程」「保育士養成課程」に該当する科目は、文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』を記載する。

⑪教材費

- ・履修者を対象に徴収する教材費、材料費、実習費等が必要な場合には、金額をこの欄に必ず記載する。

【例】

- ・教材費 1,500円。
- ・不要。なし。

⑫履修条件、履修上の注意事項

- ・必要な場合には、この欄に記載する。

【例】

- ・外国人・帰国子女必修。
- ・「〇〇〇Ⅰ」の単位修得していることが望ましい。・・・など

Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率

①学習項目

- ・科目ごとに必要な学習項目を設定し、その評価方法の欄には○印を記入する。
- ・学習項目は、Ⅱの③「履修者の到達目標」(学習成果)に対応した内容となるよう、設定する。
- ・必要な場合は、項目の数を増やしてよい。

②評価方法

- ・「① 学習項目」の達成度を評価する方法を記載する。
- ・設定されている以外に評価の方法を定めたい場合は、7の「その他」の欄を用いて記し、該当する「学習項目」欄に、○印を記入する。

③配点比率

- ・各評価方法の配点比率を、この欄に記載する。
- ・各評価方法の配点比率の合計が、100%となるようにする。

④ルーブリック評価

- ・「ルーブリック評価」の実施の有無について記載する。

【例】

- ・取り入れている
- ・取り入っていない

⑤課題等に対するフィードバックの方法

- ・課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法について記載する。

【例】

- ・レポートを採点し、返却する。
- ・レポートやテストを返却し、講評する。
- ・課題（試験やレポート等）の成績評価に対する問い合わせに応ずる。

Ⅳ その他

- ・履修者へのメッセージ等がある場合は、この欄に記載する。
- ・国家資格や認定資格、連絡事項などを記入する。

【例】

- ・Tシャツ、ジャージ、運動靴を準備すること。
- ・短期大学アカウントでログインし、「クラスルーム」に参加すること。
- ・「認定ベビーシッター」、「社会福祉主事任用資格」、「ピアヘルパー」、「准学校心理士」